

表現の彼方



堀田耕介

表現の彼方

堀田耕介

傷つかなければ唇に触れられない林檎の果肉のよ
うに

私の心は傷つくまで私の心に気がつかない

自分が描いていた世界に誰も住む人はなくて

無人の街路にただ乾いた風が吹く

そんな旅を何度繰り返してきたのだろう

豊かな大地夢のある街を求めて歩き続けてきたはずなのに

気がつけばいつも砂漠にいる夢を見る

青い空がコバルトに変わっていく何もない水平線の上

宵の明星はただきらめいている空のアクセサリのように

考えるのをやめてただ感じるんだ

考えるのをやめてただ書くんだ

考えるのをやめたところから表現は始まる
表現の彼方にしか本物はない

泣くのをやめたら感じるんだ

怒るのをやめたら書くんだ

不安に埋没するのをやめたところから表現は始まる

表現の彼方にしか明日はない

からだを広げてみよう手を伸ばして

両手を見えない壁にあてて腰を落として

一歩一歩横に進みそして振り返る

世界はからだを広げる前と少し変わっている

一歩一歩足の裏で地面を感じながらゆっくりと

歩こう

通り過ぎていく世界をからだの表と背中を感じよう

だんだん自分の後ろの世界が広がって行き

自分の前には新しい世界が現れる

音楽を体で感じ心に震える音を聞こう

そのピアノを聞くとときどうして心は涙を流すのか

音楽は癒されるべき心のために存在する

癒されるべき心で考えるのはやめておこう

沈んだ心に浮かぶのは沈んだ考えだけだ

音楽は、傷ついた心のためにある

言葉は、励ましを必要とする心のためにある

痛みは、迷いを彷徨う混乱のためにある

一筋の光のように行き先を与え

お腹の底を温める熱のように勇気を与え
地球の引力のように落ち着かせてくれる

心動かし、そして静止させる運動方程式
愛が心を~~の~~崩壊させ

希望が浮力を与えてくれる

ガリレオはまだいない

ましてやアインシュタインなど

だから考えるのをやめたところから表現ははじまる

表現の彼方にしか明日はない

(二〇一二・三・一六)

表現の彼方

<http://p.booklog.jp/book/46660>

著者：堀田耕介

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/kous37/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/46660>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/46660>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.